

【記入例】 教員の研究活動

連合講座：生物機能科学

所属大学：島根大学

氏名（ローマ字）：連大 太郎（Rendai, Taro）

職：教授

I. 公表論文

●著書（単著の場合）

1) Rendai, T.: Host-Pathogen Interactions in Plant Disease (ISBN: 978-0-12-369493-5). Elsevier, Amsterdam, 257p. (Aug. 2015)

2) 連大太郎：DNA とタンパク質 (ISBN: 4-7853-5209-4) . 裳華房, 東京, 188p. (2015年5月)

●著書（共著の場合）

1) Daisenji, M. and Rendai, T.: Host-plant selection by phytophagous insects. *In Pathogenesis and Host Specificity in Plant disease* (Edited by Lehane, M.J. and Billingsley, P.F., ISBN: 978-1-4200-6177-2), CRC Press, Taylor & Francis Group, Boca Raton, pp. 51-87 (Aug., 2015)

2) 連大太郎：栄養・消化・排泄. 昆虫生理生態学（河上義明・毛利貞洋・池田榊太郎編, ISBN: 978-1-254-42031-9）. 朝倉書店, 東京, pp. 32-52 (2016年3月)

■論文

1) Rendai, T., Shimane, J. and Yamaguchi, S.: Ancestral developmental potential facilitates parallel evolution in the Atlantic killfish (*Fundulus heteroclitus*). *Journal of Biological Chemistry*, **285**: 26107-26113 (Aug., 2015)

2) 大山寺榊美・山口三郎・島根次郎・連大太郎：汽水湖底質の加熱造粒による脱塩技術. 環境技術 (2016年2月)

▼その他

1) 山口三郎・連大太郎：ツツジの異なる花色の花冠における差次的発現解析. 島根大学生物資源科学部研究報告, **12**: 52-59 (2015年9月)

2) 連大太郎：グリシンベタインと耐塩性. 農業および園芸, **82**: 217-223 (2015年7月)

II. 招待講演

国際学会

1) Rendai, T.*. and Daisenji, M.: Water saving in irrigation at the field level. The 8th International Conference on Mushroom Biology and Chemical Control. Portland, Oregon, USA (Mar., 2016)

国内学会

1) 連大太郎：病原菌の病原性決定因子に対する植物の認識と応答. 日本植物生理学会シンポジウム（島根県浜田市）(2016年2月)

III. 学術賞等の受賞（平成27年度（2015年度）のみ）

日本生化学会奨励賞（2015年10月21日）

日本植物病理学会賞（2016年3月19日）

IV. 研究助成金（平成27年度（2015年度）のみ）

科学研究費（代表者のみ）

1) 基盤研究（B）：ナイル川流域における効率的な水利用に関する調査研究 [海外学術調査]

2) 若手研究（B）：トチノキの果実あたりの種子数の変動とその要因

奨学寄付金等

奨学寄付金：2件，受託研究：1件，共同研究：3件

V. その他の教育研究活動（平成27年度（2015年度）のみ）